

遠隔医療に対する診療報酬上の現行の取扱い

1 医師対医師のケース

診療所等から病院に画像を送り、病院にいる専門的な知識を持った医師が画像診断を行うなど、患者に対する医療サービスが向上している場合は、診療報酬上の評価を行っているところ。

※ 画像診断管理加算1 70点（画像診断を専門に行う医師が管理を行った場合）

画像診断管理加算2 180点（「1」に加え、8割以上の読影結果を翌日までに、依頼主である診療所等の医師に報告している場合）

2 医師対患者のケース

対面診療が原則であり、遠隔診療はあくまで補完的な役割であることから、診療報酬上の評価のためには、対面診療に比べて患者に対する医療サービスの質が上がるという科学的なデータが必要。

※ 電話等による再診 72点

- ・患者又はその看護に当たっている者から電話等（テレビ画像等による場合を含む。）によって治療上の意見を求められて指示をした場合に、再診料を算定することができる。

A001 再診料 72点

注9 患者又はその看護に当たっている者から電話等によって治療上の意見を求められて指示をした場合においても、再診料を算定することができる。

[留意事項通知]

(7) 電話等による再診

ア 当該保険医療機関で初診を受けた患者について、再診以後、当該患者又はその看護に当たっている者から直接又は間接(電話、テレビ画像等による場合を含む。)に、治療上の意見を求められた場合に、必要な指示をしたときには、再診料を算定できる。

イ 電話、テレビ画像等を通した再診(聴覚障害者以外の患者に係る再診については、ファクシミリ又は電子メール等によるものは含まない。)については、患者の病状の変化に応じ療養について医師の指示を受ける必要のある場合であって、当該患者又はその看護に当たっている者からの医学的な意見の求めに対し治療上必要な適切な指示をした場合に限り算定する。

ただし、電話、テレビ画像等を通した指示等が、同一日における初診又は再診に附随する一連の行為とみなされる場合、時間おきに病状の報告を受ける内容のものである場合等には、再診料を算定できない。また、ファクシミリ又は電子メール等による再診については、再診の求めに速やかに応じた場合に限り算定できるものとし、この場合においては、診療録に当該ファクシミリ等の送受信の時刻を記載するとともに、当該ファクシミリ等の写しを貼付すること。

初診料の診療報酬における取扱いについて

<平成28年6月9日のヒアリングにおけるご意見>

- ・ 初診を対面診療で行い、その後、電話等再診を行っているケースについて、患者の自己判断で診療を中止し、1月以上経過した場合には、初診の扱いとなってしまうため、電話等再診による診療を継続出来ないケースが存在するのでは無いか。

[留意事項通知]

A000 初診料

- (13) 患者が任意に診療を中止し、1月以上経過した後、再び同一の保険医療機関において診療を受ける場合には、その診療が同一病名又は同一症状によるものであっても、その際の診療は、初診として取り扱う
- (14) (13)にかかわらず、慢性疾患等明らかに同一の疾病又は負傷であると推定される場合の診療は、初診として取り扱わない。



<対応案>

当該保険医療機関で初診を受けた患者について、再診以後、当該患者又はその看護に当たっている者から電話等により治療上の意見を求められ、必要な指示をしたときは、再診料を算定できるとされているが、以下のような場合にも再診料を算定できることとする。

- ①診療継続中の患者が任意に診療を中止し、1月以上経過した後に、同一の疾病について行われた場合
- ②A傷病について診療継続中の患者がB傷病に罹り、B傷病について行われた場合